

こころ育てる絵本との出会い

まがちゃん通信

2021 2 - 3 vol. 66

絵本作家インタビュー

はらぺこめがね

特集 絵本館を讀える



はらぺこめがね

おいしいものは美しく、
人と人をつなぎ合わせる力がある。
「食べ物」というジャンルではなく、
「はらぺこめがね」というジャンルが
確立できたらいいな。



撮影者/Hitoshi Ote

はらぺこめがね プロフィール

1983年徳島県生まれの原田しんや、1982年大阪府生まれの関かおりによる夫婦イラストユニット。どちらも2005年、京都精華大学デザイン学科卒業後、グラフィックデザイナーを経て、イラストレーターとして独立。

2011年、はらぺこめがねを結成。

絵本に『やきそばばんばん』（あかね書房）、『くだものさがしもの』（PHP研究所）、『みんなのおすし』（ポプラ社）、『ごはん山』（白泉社）、『にくのくに』（教育画劇）などがある。

また、『ごちそうぐDJの音楽』（DJみそしるとMCごはん）のジャケットアートを担当するなど、「食べ物と人」をテーマに幅広く活動している。

絵本原画展開催

令和3年1月30日(土)～3月30日(火)



『にくのくに』(教育画劇)



『あななはてな』(アリス館)

原画展示絵本

今日は肉の国一番の王さまを決める大事な日。
ローストビーフ王に、カラアゲ王など個性的な王様が続々登場!

ちくわ、ドーナツ、パイナップル...どうして あなが あいてるの?
あなの秘密を楽しく紹介するユーモア絵本。

早春のギャラリーでは、ハマる人続出！食べ物愛するはらぺこめがねさんの

『あなあなはてな』にくのくに』、2冊の絵本原画をご紹介します。

はらぺこめがね先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

2011年、はらぺこめがねを結成して間もないころ、とあるアートイベントに出店中にお客さんとして来られた「ニジノ絵本屋」のオーナー石井さんに出会ったことがきっかけです。

そこからお付き合いが始まって、翌年の夏にデビュー作『フルーツポンチ はらぺこ印①』をニジノ絵本屋から出版することになります。ニジノ絵本屋さんにとっても初めての絵本出版でした。

画材は何を使っていますか？

画材は基本的にアクリルガッシュです。作品に合わせて鉛筆やペンなど違う画材を併用する場合もあります。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

「あなあなはてな」

当初、実は穴があいている食べものとして、たけのこを登場させるつもりだったのですが、取材のため、たけのこ掘りに行きました。編集者の末松さんに「当日は動きやすい汚れてもいい格好で来てください」と言われ、私たちは万全の格好で挑みました。ところが駅で落ち合った末松さんはなかなかのガリリーな格好…。靴とか着替えとか持ってきてるのかなあと現地まで向かい、たけのこ掘りのガイドさんに一通り説明を受けて出発するのですが、やはり彼女はそのままの格

好で。ガイドさんにちよつぱり叱られズボンと長靴を借りていました。その後は3人でたくさんたけのこを掘って、自然とも戯れてとても癒やされた一日でした。

結局たけのこを登場させるのはやめました。たが、末松さんと出会ってまだ間もない頃だったのでこの珍事件がおもしろく心に残っており、団結するいい機会になったなあと。今思い返してもにやにやしてしまいます。これがなければきっと納得のいく『あなあなはてな』はできていなかったと思います。

「にくのくに」

徹底的に「肉」にこだわった一冊です。編集者の清田さんがお肉が大好きで、絵本『すきやきはらぺこ印②』を見て、私たちが描く肉をとても気に入ってくださり「二人の描くお肉の絵本を作りたいんです！」とお声がけいただいたところから始まりました。もちろん私たちもお肉は大好きで、描くのもとても大好きで、企画段階からテンション高めに打ち合わせも毎回、楽しくさせていただきました。

「にくのくに」という言葉をまず思いついて、これをタイトルにするというところはすぐ決まりました。清田さんもこのタイトルをとてても気に入ってくれて「とてもいいアイデアのおもしろいタイトルなので出版情報が開されるまではトップシークレットです」ということになりました。こんなことは初めてで、口を滑らせてしまいそうでもどもドキドキしてたのが今では懐かしいです。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象

深い絵本は？

「レンガおとこ」です。こちらの絵本は高円寺にある「えほんやるすばんばんするかいしゃ」とさんと一緒に小ロットで手づくりした絵本です。レンガを食べるおとこの話なのですが、テーマも造本も初めて挑戦することだらけで、するすばんさんと手探りでこだわり抜いて制作したのが何より良い経験になりました。おかげで今までにない良い絵本ができたなと改めて思っております。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

まずはとにかく自分たちが楽しめるものを目指しています。でも押し付けがましくなるのは嫌だな。ただ食べることにちよつとでも興味を持ってくれたらいいなという小さな野望はあつたりします。

ご趣味についてお聞かせください。

梅仕事や味噌づくりなど、つくったり食べたりして、美味しいものと触れ合うことです。

好きな言葉を教えてください。

「適当」

だらしない感じの言葉に聞こえるかもしれませんが、ちゃんと、ちよつといいとか、びつたりとか、いい塩梅という意味として捉えた時のこの言葉がとても好きです。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

美味しいものを食べて人生楽しみましょう！

はらぺこめがね先生、ありがとございました！



「あなあなはてな」
(アリス館)

はらぺこめがね先生の サイン入り絵本を3名様に プレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
はらぺこめがね サイン本プレゼント係
締め切り 令和3年4月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。

3/20(土)

はらぺこめがねさんとつくりよう!!
紙のお弁当づくりワークショップ



読み聞かせやサイン会も♪
時間 ①10:00~11:30
②13:30~15:00
場所 パフォーマンスホール
定員 各回20組
材料代 ひとつ500円(要入館料)
★お申込み方法など詳細は本誌P6に掲載。
小さなお子様から大人まで楽しめます♪



萩野 恭一
射水市絵本文化振興財団評議員

特集/ 絵本館を 讃えよう

絵本館回遊

「いい顔しているな」と、絵本館で親子に会うたびに嬉しくなる。世界で一番美しい光景が満ち満ちている。

弓なりに伸びるアプローチ、左手に水琴窟。右手に「風のアーチ」を見ながら百歩。正面に立つと、いつも身が引き締まる。

絵本は本との出会いの始まり。ライブラリーには14のテーマに絵本が並べられ、母親が子どもに本を読んでいる姿は麗しい。ギャラリーでは、スタッフから作家の原画技法を聴いて、創作の謎と深さを体感し、自分も描こうと思いつく。

階段の踊り場に立つと、遠方に万葉の二上山、手前に神楽川。下に鳥取の里の土を盛って作った野外劇場。その地下にはモグラの穴が巡らされ、子どもたちが楽しそうに遊んでいる。

ワークシヨップでは、子どもが父親の工作する手を見て、「なんでもできるネ」と父親を誇り、胸を張る瞬間が微笑ましい。お絵かきソフトでオリジナルグッズをつくる活動など、まさに絵本館の活用目的の「感じる・つくる・伝える」そのものだ。

17メートル三層の吹き抜けを蔵す絵本館の中央に螺旋状に伸びる上り道を見ると、白鳥に乗って大空に羽ばたきたくなる。

絵本館の回廊を巡ると、多くの記憶が蘇るヒントがあり、絵本も誰かに開いてもらえるのを待っている。

いつの日か長い人生で悩む時があれば、祖父母や両親の声、絵本館のスタッフから聞いた話が耳に残っていて「道しるべ」になるにちがいない。



回遊しながら下り、カフェギャラリーにて、コーヒーを飲み、作品を観賞するひとときは至福の時。

振り向くと東側には立山連峰を背景にジャンピングウォーターが乱舞し、子どもたちも水に溶け込んで騒いでいる。我が家の思い出を手繰り寄せる憩いの場所である。

設計者長谷川逸子氏がこらした意匠には吉田力町長のもとに提唱された絵本館構想が慈悲深く、使いやすい建物として

生きている。想像力を育むこの建築に命を吹き込み続けていくことが私たちの活動である。

現在の私は図書館を退職し、孫に会いたくて来館する年齢になった。出会う絵本に喜び、それぞれの知恵を引き出す絵本づくり、「大人の絵本」読書会を企画してもらいたい。ふるさとの原風景に通じる「空に浮かぶ船」に乗船し、創造の種がいつばい詰まっているこの絵本館を讃えたい。

『かちかちやま』

田島征三／作 三起商行

うさぎとたぬきのやり取りをコミカルに辛辣に描く田島征三の描写が好きです。

『だいじょうぶ だいじょうぶ』

いとうひろし／作・絵 講談社

「老い」と「死」を見つめるお年寄りに読んでもいい本です。

『カモシカとしゃかん』

魚瀬ゆう子／文 水上悦子／絵 桂書房

日本一小さな村でおこったほんとうの話。カモシカの心の動きと動揺がよく描かれています。初めて図書館にやってくる子どもたちに、図書館員・図書館にいる人のやさしさが問われる絵本です。

『こぐまのくまくん』

E・H・ミナリック／文 モーリス・センダック／絵 まつおか きょうこ／訳 福音館書店

母と子の空想あそびの絵本です。

『ルリユールおじさん』

いせひでこ／作 講談社

本造りの職人から少女へのおくりもの。本造り、製本の深さを堪能できる本です。

私のおすすめ絵本

『おかあさんの目』

あまん きみこ／作 くらいつけん／絵 あかね書房

見たものをどのように記憶すればいいのか。おかあさんの目の無償の愛にヒントがありそうです。

